

高原町教育研究所

I	研究主題	9-1
II	主題設定の理由	9-1
III	研究の目標	9-1
IV	研究仮説	9-2
V	研究構想	9-2
VI	研究内容	9-3
1	理論研究	9-3
(1)	高原町が目指すふるさと学習	9-3
(2)	総合的な学習の時間におけるふるさと学習	9-4
ア	総合的な学習の時間におけるふるさと学習の基本的な考え方	
イ	「総合的な学習の時間」各学年の指導計画	
ウ	小学校第5学年の指導計画例	
(3)	他教科におけるふるさと学習の系統表	9-6
2	ふるさと学習の実践	9-7
(1)	広原小・狭野小学校第6学年の実践例	9-7
ア	授業のねらい	
イ	指導計画	
ウ	本時の学習指導過程	
エ	授業の実際	
(ア)	IT機器の活用	
(イ)	体験的な調べ活動	
(ウ)	TV会議による交流発表会	
オ	実践授業の成果と課題	
(2)	その他の学校・学年の実践例	9-9
ア	小学校第5学年の実践例	
イ	中学校第1学年の実践例	
VII	成果と課題	9-10

- 参考文献
- 研究同人

I 研究主題

ふるさとを愛する「たかはるの子」の育成
～高原ならではの地域素材を生かした小中一貫教育の取組（2年次）～

II 主題設定の理由

今日の社会は、情報化、グローバル化等により時代が急変し、景気の問題や少子高齢化、核家族化が進み、地域社会における人間関係が希薄なものとなっている。そのために、若者は、将来に不安を感じ、夢や目標をもって、前向きな生き方をすることが難しくなっている。

このような社会情勢の中で、宮崎の教育創造プランにおいては、「恵まれた自然、先賢の精神、豊かな人情などの本県の教育資源を生かしながら、『確かな力を基盤とした感動と感性の教育』を推進することを通して、『ふるさとを愛し、自分に自信と誇りを持ち、夢や希望を抱いて、社会に貢献する気概を持つ子ども』の育成を目指す」としており、創造の視点1に「ふるさと教育の充実」を挙げている。

そして、「第2期 明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」においては、地域ぐるみの教育環境推進を基盤とし、戦略2に「地域の特性を生かした多様な一貫教育の推進」を設定しており、県内各地で種々の先進的な実践がなされている。

本町は、平成18年10月にNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟し、美しい農山村の景観や環境・文化を保存する取組を行っている。間近に見える霧島連山や裾野に広がる田園、その間を流れる清流等の美しい日本の原風景を地域の財産として生かし、児童生徒の郷土愛を高める教育を推進していくことは、今後一層社会の変革が進む中で、最も重視すべき課題であると考えます。

昨年度に実施した実態調査においては、高原町の95%以上の児童生徒が「高原町のことを『とても好き』、『好き』」と回答しているにもかかわらず、「町鳥、町花、町木、町旗等を知らない」、「町の人口や主な産業を知らない」、「高原町のことをもっと知りたい、調べたいと思わない」、「高原町の自慢できることを誰かに教えたいと思わない」など、意外に知らないことが多く、身近なふるさとについての興味・関心が高いとは言えない結果であった。そのために、高原町では、小中一貫教育を積極的に推進し、高原中学校区及び後川内中学校区における合同研修会や合同授業研究会等を開催する等の小・中学校が連携した取組を推し進めている。そして、本研究所は、高原ならではの地域素材を生かしたふるさと学習を充実するために、実態調査や地域素材の開発、ふるさと学習の実践を通して、これらの取組をより進展させることに力を注いできた。

本年度は、昨年度までの実績と課題を踏まえ、高原ならではの地域素材を活用した「ふるさと学習指導モデル」を作成し、小・中学校の連携を図りながら系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を高原町の児童生徒（小3～中3）に、学習させる実践を試みることにした。

このような取組を充実させていくことができれば、児童生徒の身近なふるさとへの興味・関心が更に高まり、「ふるさとを愛する『たかはるの子』の育成」ができると考え、本主題を設定した。

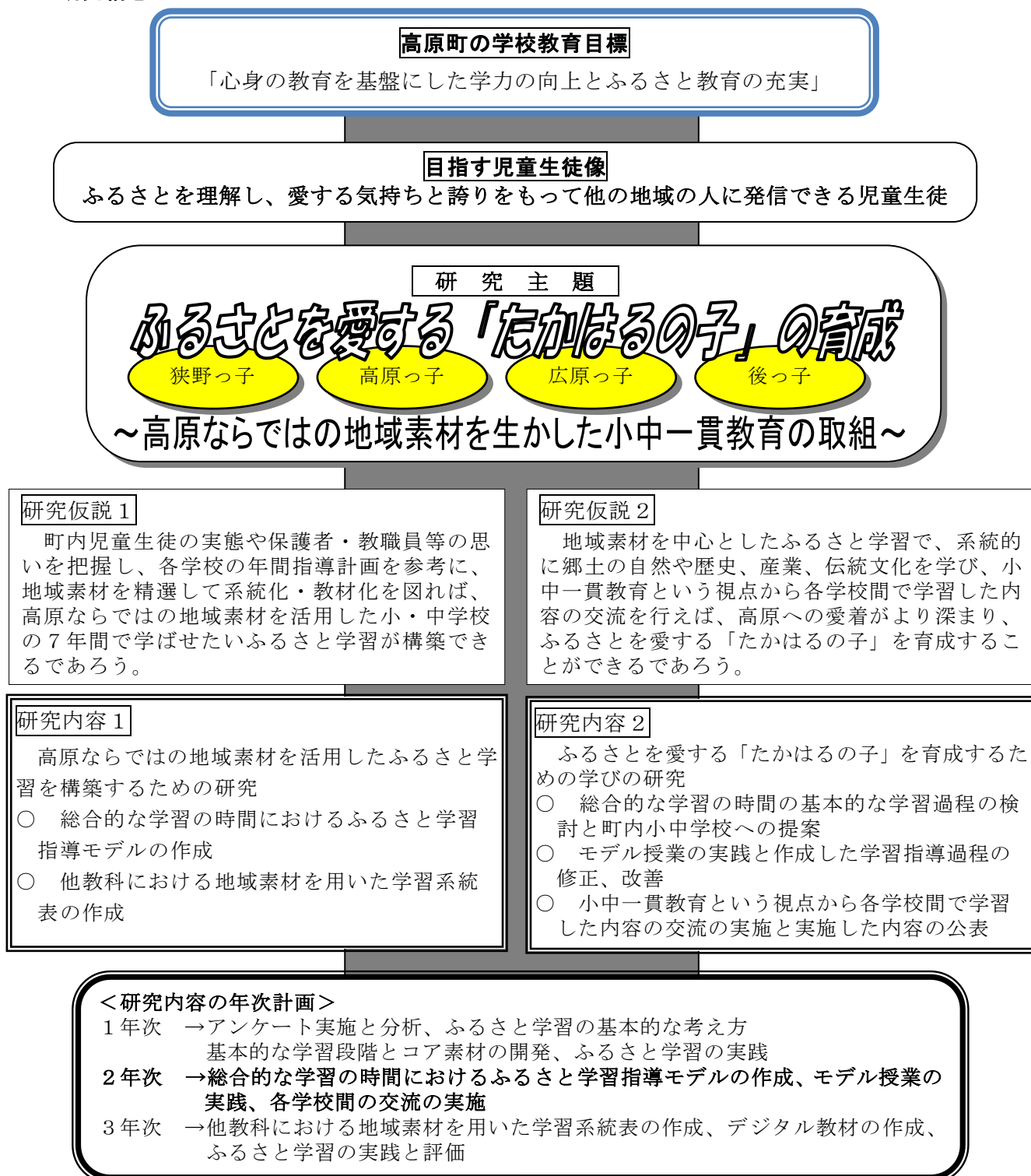
III 研究の目標

- 1 小・中学校の7年間（小3～中3）で学ばせたい、高原ならではの地域素材を活用したふるさと学習指導モデルを作成する。
- 2 小中一貫教育の推進を図り、地域素材で系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学ぶことを通して、ふるさとを愛する「たかはるの子」を育成する。

IV 研究仮説

- 1 町内児童生徒の実態や保護者・教職員等の思いを把握し、各学校の年間指導計画を参考に、地域素材を精選して系統化・教材化を図れば、高原ならではの地域素材を活用した小・中学校の7年間（小3～中3）で学ばせたいふるさと学習が構築できるであろう。
- 2 地域素材を中心としたふるさと学習で、系統的に郷土の自然や歴史、産業、伝統文化を学び、小中一貫教育という視点から各学校間で学習した内容の交流を行えば、高原への愛着がより深まり、ふるさとを愛する「たかはるの子」を育成することができるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 理論研究

(1) 高原町が目指すふるさと学習

ふるさと学習では、町内の児童生徒が、ふるさとに関する正しい知識をもつことも大きなねらいのひとつであるが、知識を得て、それを増やすことのみではなく、得た知識で本町のよさを知り、郷土愛を高めることにつなげることをねらいとしている。また、先人や町内に住む先輩方との関わりを通して、いろいろな人のふるさとに対する思いについても考えさせることで、情意的な側面も育んでいく。

ふるさと学習は、高原のシンボルである「霧島山」を中心にして、総合的な学習の時間はもちろん、各教科の中にも、高原ならではの地域素材を配置し、小学校3学年から中学校3学年までの7年間で、大きな3つのステージと発達段階に応じた基本的な考え方を踏まえ、総合的な計画のもとに実施していく。

各学年のめざす児童生徒像と各段階のステージをまとめると、次のようになる。

段階	学年	各段階の内容	各学年の目指す児童生徒像
知る	小3・小4	3学年の社会科で本町について学習することを中心に、ふるさとに関わる知識を増やすことを目的とする。町章、町木、町花、町鳥や自然、歴史的な建物など、ふるさと高原の具体的な事実を学習する段階。「霧島山」についても概要を学び、基本的な知識を得る。	ふるさとについて町の概要や自然等高原町に関わる事項について、ふるさとを理解するために主体的に調べようとする児童（小3～5）
広げて深める	小5・小6・中1	「知る」段階での知識をもとに、歴史や事実の背景等、本町についてのよさをさらに掘り下げる段階。「霧島山」については、今までに得た知識をもとに、「霧島山」のよさや恵みについて考える。6年生では、小学校段階のまとめとして、「高原町の神話・伝説、文化財」についてテレビ会議システムを活用して発信し、他の学校との交流を通して、ふるさとについての知識を広げたり、よさを多面的に考えさせたりする。	ふるさとについての知識をもとに、町内の児童同士で、自分の思いを紹介し、多様な視点での本町のよさを認識することができる児童（小6）
振り返る	中2・中3	「広げて深める」段階で考えた本町のよさを再度、改善点も含めて検証し、体験等を通して、より深く考えさせる段階。「人とのふれあい」もテーマの一つとし、町内の先輩にインタビューをすることで、多様な考えにふれさせ、ふるさと高原についての考えを振り返らせる。また、ふるさと学習のまとめとして、学習の成果を発信する。	ふるさとについての知識や現状、並びにふるさとの先輩からの話をもとに、ふるさとについての自分の思いを素直に表現できる生徒（中1～2） ふるさとに関する知識や、現状をもとにふるさとのよさを守り、課題を改善していくための自分の役割を考える生徒（中3）

(2) 総合的な学習の時間におけるふるさと学習

ア 総合的な学習の時間におけるふるさと学習の基本的な考え方

小学校3学年から中学校3学年までの「知る」「広げて深める」「振り返る」各段階のステージの考え方をもとに、ふるさと学習を実施するために、小・中学校7年間（小3～中3）で学ばせたい、高原ならではの地域素材を活用した総合的な学習の時間における各学年5時間のふるさと学習モデルを作成した。5時間に設定した理由は、「新学習指導要領ガイドブック～『生きる力』をはぐくむ教育課程の創造を目指して～」(宮崎県教育委員会)で示されている「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「まとめ」の5段階を参考にした。

内容は、町内の小・中学生に高原町で生まれ育った児童生徒として、学ばせたい高原町ならではの地域素材（自然や歴史、産業、伝統文化）について基本的な知識を理解し、さらに町内の児童生徒同士、先輩との交流を通してふるさとのよさを見つめ直し、ふるさとに誇りをもって生きる力を育てることをねらいとしている。

イ 「総合的な学習の時間」各学年の指導計画

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
単元名	高原町を知ろう	高原町かるたを作ろう	PR大作戦！～「霧島山」のよさや恵み～	“神武の里”高原の歴史を訪ねよう！	ふるさとを守っていこう	ふるさとの先輩と語ろう	「ふるさと高原」を発信しよう
ねらい	高原町のことを調べることで、自分たちの住む町に興味・関心を持ち、高原町について知識を得ることができる。	高原町のことをさらに調べ、高原町についての知識を広めることができる。	「霧島山」の特徴や山の恵みを通して、ふるさとのよさを実感することができる。	高原町に伝えられている神話・伝説や文化財について調べることを通して、歴史と伝統あるふるさとのよさを実感することができる。	今まで学習したことをもとに、中学生の視点で高原のよさを見つめることができる。	町内の先輩方にインタビューをして、「ふるさと高原」に対する思いを聞くことで、自分の「ふるさと高原」への思いを振り返らせる。	ふるさと学習で学んだ知識や自分の思いをまとめ、「ふるさと高原」について発信する。
第1時	○高原町の町旗・花・鳥・木・校旗について知る。 ○グループ分けをする。 ○調べる計画を立てる。	○3択クイズをする。 ○高原町にある豊かな自然や歴史的な建物について知る。 ○グループ分けをする。 ○調べる計画を立てる。	○ふるさとの山「霧島山」について知る。 ・大切なシンボルであること ・個々の山にも名前があること ・個々の山々の特徴や恵み	○「ひむか神話街道／Webサイト高原町」を鑑賞し、高原町の歴史に興味をもつ。 ○高原町Web等に、町の神話等が紹介されていることを知り、調べたいことを決定する。	○高原町についてこれまでに学習してきたことを振り返る。 ○高原のよさを発表し合い、調べたいテーマと発表方法を決め、計画表をつくる。	○インタビューの申し込みをしよう。	○「ふるさと高原」のよさについて話し合おう。
第2時	○自分の興味をもったものについて調べる。	○自分の興味をもったものについて調べる。 ・御池 ・皇子原 ・「霧島山」 ・地域の神社 ・川 ・温泉 ・史跡・文化財など	○グループに分かれ、山々のよさや恵みについて、図書やインターネット等を使って調べたり家や近所の人にインタビューしたりして調べる。	○自分が選択した高原町に伝わる神話・伝説や文化財について調べる。	○自分の決めたテーマを調べ、まとめる。	○「インタビュー企画書」を作ろう。	○「ふるさと高原」のために、私たちにできるボランティア活動を考えよう。
第3時			○グループで調べたことをまとめ、ニュースレポート形式で発表できるように編	○詳しく調べたことをまとめ、高原町のマップに書き込む。	○発表に使用する作品を作る。	○インタビューをしよう。	○ボランティア活動の準備をしよう。

			集し、それぞれの山のよさや恵みについて発表する。				
第4時	○調べたことをまとめる。 ・模造紙 ・絵本 ・画用紙	○高原町かるたを作る。	○グループごとに発表し合い、それをビデオに収める。 ○それぞれのグループの発表のよさを認め合い、よさや美しさについて話し合う。	○TV会議を通して、他の学校との交流発表会を行い、高原町内の神話・伝説や文化財についての知識を広げたり、考えを深めたりする。		○「ふるさと高原」への思いが伝わる、インタビューのまとめをしよう。	○グループごとに、ボランティア活動をしよう。
第5時	○調べたことを発表し、学習を振り返る。	○高原町かるた大会をする。 ○調べたことを振り返る。	○ビデオを保護者や関係者に見てもらい、活動の様子をHP等で伝える。 ○単元の活動を振り返り、学習のまとめをする。	○単元の活動を振り返り、学習のまとめをする。 ○作成したマップを校外に公表する計画を立て、外部に発信する。	○まとめた内容を発表し合い、高原のよさを見つめる。	○インタビューのまとめを発表し合おう。	○ボランティア活動やふるさとへの思いをまとめよう。

ウ 小学校第5学年の指導計画例

学年	第5学年		視点	ふるさと学習
単元名	PR大作戦！～「霧島山」のよさや恵み～		時数	5時間
ねらい	○ 「霧島山」の特徴や山の恵みを調べるを通して、ふるさとのよさを実感することができる。			
時	児童の活動・内容	教師の指導・活動の留意点	評価	
第1時	○ ふるさとの山「霧島山」について知る。 ・「霧島山」は高原町にとって大切なシンボルであることを知る。 ・いくつかの山から「霧島山」が成り立ち、個々の山にも名前があることを知る。 ・個々の山々の特徴や恵みについて知る。	○ アンケートの結果によってふるさとについての認識をふり返らせ、ふるさとの山「霧島山」について調べようとする意欲を高める。	○ 「霧島山」のよさ・美しさについて、調べようとする意欲をもてたか。	
第2時	○ グループに分かれ、山々ごとのよさや恵みについて、図書やインターネット等を使ったり、家や近所の人にインタビューしたりして調べる。	○ 家の人へのインタビューワークシートを準備する。 ○ 「霧島山」に関する写真資料が調べられる Web ページをリストアップしておく。	○ 「霧島山」について、意欲的にインタビューしたり、インターネットで調べたりすることができたか。	
第3時	○ グループで「霧島山」について調べたことをまとめ、ニュースレポート形式で発表できるように編集し、それぞれの山のよさや恵みについて発表する。	○ 自分なりの考えをまとめ、また、資料を見やすくして、伝えたい内容が分かりやすく構成されるように助言する。	○ 「霧島山」について調べたことをもとに、詩や短歌・俳句にまとめることができたか。	
第4時	○ グループごとに発表し合い、それをVTRに収める。 ○ それぞれのグループの発表のよさを認め合い、「霧島山」のよさや美しさについて話し合う。	○ 発表の内容がよく伝わるように、掲示の仕方や発表の声、聞き手のメモの取り方等の事前指導をしておく。 ○ それぞれのグループの発表から、「霧島山」のよさや恵みについて相互にまとめさせる。	○ 他の学校の人に自分の作った作品を通して「霧島山」のよさ・美しさを紹介できたか。 ○ 友だちの作品を通して「霧島山」のよさ・美しさについて考えを深められたか。	
第5時	○ 発表する内容のVTRを保護者や関係者に見てもらい、活動の様子をHP等で伝える。 ○ 単元の活動を振り返り、学習のまとめをする。	○ VTR視聴をすることを、あらかじめ保護者や発表に協力していただいた方々に伝え、参観授業として計画をする。 ○ 深まった考えをもとに、ワークシートで自己評価ができるようにする。	○ 「霧島山」のよさや恵みについて考えを深め、そのすばらしさを他の学校や町内外の人々に伝えることができたか。	

(3) 他教科におけるふるさと学習の系統表

総合的な学習の時間以外の各教科で、地域素材を関連的に扱うことのできる教科・単元をピックアップした。その中で、「霧島山」を中心にして、町内の学校全体が統一して実践できる地域素材の活用を考え、系統表を作成した。今後は、下の系統表を各学校の年間指導計画に位置付け、計画的に実施していく予定である。

「霧島山」を中心とした地域素材の系統表

学年	月	教科・単元名	学習内容
小3	4月	社会科 「わたしたちのまち、みんなのまち」	副教材をもとに、各学校の身近な場所を訪ね、新たな発見やインタビューをして分かったことなどをマップにまとめて発表する。
小4	10月	社会科 「山ろくに広がる用水」	学校近くの用水を調査し、用水の用途や仕組みを調べる。また、身近な用水に関係する川や高千穂用水の写真などを授業に活用する。
小5	3月	社会科 「自然災害を防ぐ」	日本での自然災害を取り上げる中で、新燃岳の噴火の資料も活用し、日本の環境をテーマにしてまとめる。
小6	12月	理科 「大地のつくりと変化」 ～大地の変化～	火山灰の観察をしたり新燃岳の火山活動について調べたりする。また、「霧島山」の副教材や、「霧島山」の模型を用いて学習を進める。
中1	12・1月	理科 「活きている地球」 ～火山について探ってみよう～	火山の噴火のしかたや形、噴火の特徴などを調べる活動の際に、新燃岳の噴火の写真やビデオを視聴したり、火山灰・火山礫を観察したりしながらまとめる。
中2	6月	国語科 「調べて発信しよう」 (テーマを選択)	高原町の政治・産業・文化・福祉・教育・自然等を題材にした学習課題を設定し、テーマを選択して課題解決学習を行う。
中3	5月	英語科 「コミュニケーション」 ～町の紹介～	高原町を代表する「霧島山」や文化財を中心に、英語で紹介文を考え、発表する。

第5学年社会の指導過程の例 【単元：自然災害を防ぐ】(3月) 4時間／東書p102～107

段階	主な学習活動	指導上の留意点	評価の規準
つかむ	<p>○ 我が国で近年起こった自然災害を調べて地図や年表にまとめて発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本のどこかで、毎年のように大きな自然災害が発生していること 我が国に被害をもたらす自然災害には、様々な種類があること 自然災害の発生場所は、全国に広く分布していること 新燃岳噴火の様子についても確認し、その被害の防止についての関心を高め、 <p>人々がどのように自然災害を防ごうとしているのか →新燃岳では？ という学習問題へつなげる。</p>	<p>◆ <u>白地図や年表形式にまとめさせること</u>により、我が国の国土には、自然災害が起こりやすいという特色があることに気付かせる。</p>	<p>☆【技能】 我が国の自然災害について資料から読み取ったことを、白地図や年表に整理している。</p> <p>☆【思考・判断・表現】 自然災害の多さから、被害を防止する取組があることを予想し、学習問題を立てている。</p>
調べる	<p>○ <u>自然災害の被害を防ぐための国や都道府県、市町村の対策を調べ、わかったことを発表する。</u></p> <p>国→宮崎県→高原町</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災施設にはどのようなものがあるか？ 注意報や警報、避難勧告や緊急速報などの情報の発信やそのためのシステムの整備はどのようになっているのか？ 防災マップの作成、普及のさせ方や避難訓練の実施についてどのようになっているのか？ 	<p>◆教科書に示されている事例をヒントに、身近な地域(特に高原町)ではどのような対策や事業が行われているかにも目を向けさせる。</p>	<p>☆【知識・理解】 国や地方公共団体が様々な対策や事業を行っていること、国民一人ひとりの協力や防災意識の向上が大切であることを理解している。</p>

2 ふるさと学習の実践

(1) 広原小・狭野小学校第6学年の実践例(単元名:「神武の里」高原の歴史を訪ねよう!)

ア 授業のねらい

本研究所が作成した総合的な学習の時間の指導計画・学習指導過程に基づき、「高原町に伝えられている神話・伝説、文化財について調べることを通して、歴史と伝統あるふるさとのよさを実感することができる」をねらいとして実践を行った。

また、広原小学校と狭野小学校の2校で連携し、第4時において、まとめたことを相互に発表してTV会議で交流し合い、ふるさとについて学習したことがより深まるようにした。

イ 指導計画(全5時間:本時1/5)

段階	児童の活動・内容	教師の指導・活動の留意点	評価
第1時 (本時)	○ 「ひむか神話街道 Web サイト／高原町」を鑑賞し、高原町の歴史	○ 高原町には「天孫降臨」や「神武天皇」にまつわる神話・伝説	◆ 高原町の歴史や神話・伝説、文化財に興味をもつこと
第4時	○ TV会議をとおして、狭野小学校との交流発表会を行い、高原町内の神話・伝説や文化財についての知識を広げたり、考えを深めたりする。	○ 発表をグループごとに区切り、その都度質疑・応答や感想・意見交換のやり取りをしながら進め、児童の興味が持続するようにする。	◆ 自分の調べた課題について、簡潔に分かりやすく伝えることができたか。 ◆ 他の児童の発表に対して質問したり、感想・意見を述べたりできたか。
第5時	○ 単元の活動を振り返り、学習のまとめをする。 ○ 作成したマップを校外に公表する計画を立て、外部に発信する。	○ ワークシートを用いて、単元の学習を振り返る。 ○ 作成したマップを、学校の Web サイトやその他公共の場で公表する計画を立て、児童の意欲を高められるようにする。	◆ 単元の学習を振り返り、歴史や伝統あるふるさと高原町についての自分の思いをワークシートにまとめることができたか。

ウ 本時の学習指導過程

活動目標…高原町の歴史や神話・伝説、文化財に興味をもち、それらについて、詳しく調べていこうとする意欲をもつことができる。

児童の活動・内容	教師の指導・活動の留意点・評価	資料・準備
1 「高原町クイズ」を行う。 2 高原町の歴史や神話・伝説、文化財で知っているものを発表し合う。 3 本時の学習の内容を確認する。 高原町の歴史や神話・伝説、文化財について話し合い、調べる計画を立てよう。	○ 町花、町木、町鳥などの簡単なクイズを提示し、高原町についての知識を広げられるようにする。 ○ 歴史や神話・伝説、文化財とはどのようなものかを説明する。 ○ 主な資料や高原町の地図を掲示し、視覚的に歴史や神話・伝説、文化財がとらえられるようにする。	神話・伝説や歴史、文化財の説明 高原町の地図 主な文化財の写真等
4 「ひむか神話街道 Web サイト／高原町」をTVで視聴し、高原町には「天孫降臨」や「神武天皇」にまつわるものが多いことを知る。	○ 高原町には「天孫降臨」や「神武天皇」にまつわる神話・伝説が多いことを説明する。 ○ 高千穂町の「天孫降臨伝説」に簡潔にふれる。	ひむか神話街道 Web サイト／高原町の動画
5 その他の主な町内の歴史や神話・伝説、文化財について知り、自分が詳しく調べたいものを選択する。 6 調べる計画を立てる。	○ 動画や資料等を提示することで、調べたことをマップにまとめて交流発表会をしたり校外に発信したりしようという意欲を高められるようにする。	主な文化財等の写真や資料、マップなど
7 自己評価を行う。 8 本時のまとめをする。	◆ 高原町の歴史や神話・伝説、文化財に興味をもつことができたか。 ◆ 詳しく調べたいものを選択し、調べる計画を立てることができたか。	ワークシート

エ 授業の実際

(ア) IT機器の活用

単元を通してIT機器の活用を図り、視覚的で分かりやすい資料提示に努め、児童が調べたり表現したりする意欲が高められるようにした。



第4問

この木は、



①タチバナの木

町木

【デジタルTVで、資料のプレゼンテーション画面を見る児童】



【タブレットPCで、文化財について調べる児童】

(イ) 体験的な調べ活動

図書資料やインターネット等で調べるだけでなく、教師と共に実際に現地に行って本物の文化財を目にしたり触れたりする機会を設け、実感を伴った調べ活動となるようにした。中には、初めて現地を訪れる児童もおり、思い出に残る体験的な調べ活動となった。



【神社を参拝し柄杓で手をすすぐ児童】



【地域の方にお話を聞く児童】



【狭野神社の杉並木を歩く児童】



【広原小学校近くの王子神社を調べる児童】

(ウ) TV会議による交流発表会

本研究所が作成した町内共通の指導計画・学習指導過程で、広原小学校と狭野小学校での小小連携を図りながら授業を展開した。同じワークシートを用いて町の歴史や神話・伝説、文化財について調べたことを両校ともにマップにまとめ、交流発表会を行った。

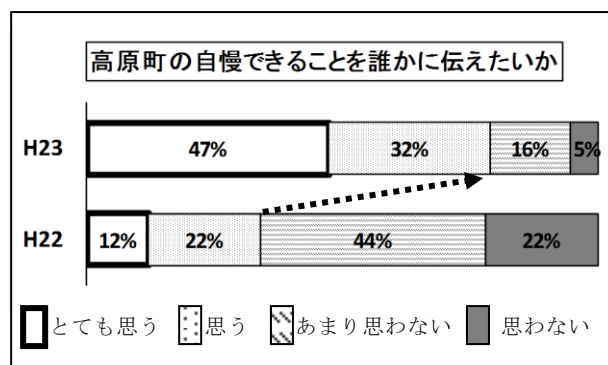
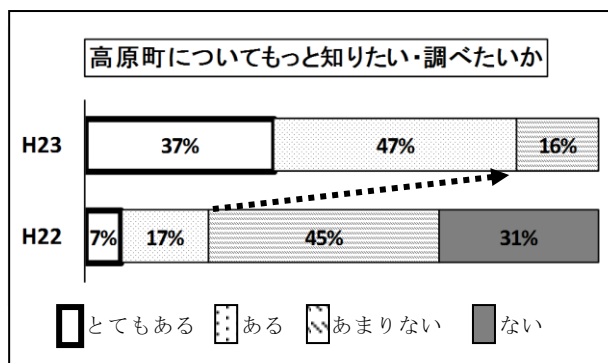
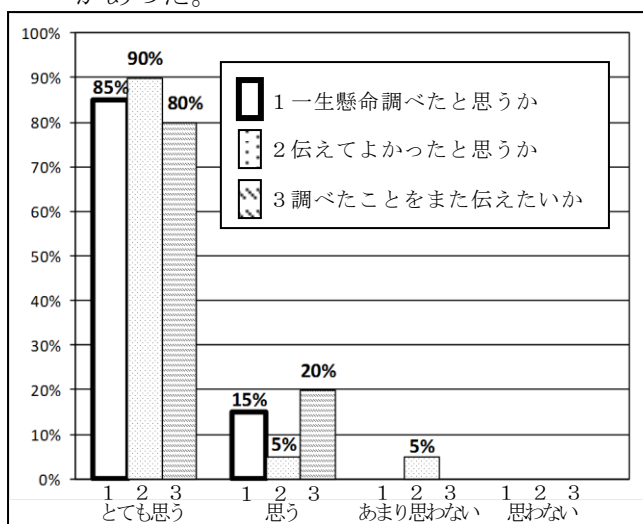
調べたことを相互に発表し合う言語活動を行うことで、まとめたことに対するそれぞれのよさや共通点・相違点に気付くとともに、TV画面を通して実際に顔を見合わせながら交流することで、全ての児童が「とても楽しかった」「調べたことを分かりやすく伝えることができた」という感想をもつことができた。



【TV会議を通して交流し合う児童】

オ 実践授業の成果(○)と課題(●)

- 単元終了後に行った授業のアンケートでは、ほとんどの児童が「一生懸命調べた」「友だちに調べたことを伝えてよかった」「調べたことを他の人々にもまた伝えたい」と回答した。
- 昨年度行った「高原町に関するアンケート」を単元終了後に行ったが、「高原町についてもっと知りたい・調べたい」「他の誰かに高原町の自慢できることを伝えたい」という児童が飛躍的に増加した。
- 本単元の指導計画は5時間の設定であるが、調べる活動やマップを作成する活動をていねいに行うと、5時間での実施は非常に困難であった。予備時数から数時間もってくる必要があった。



(2) その他の学校・学年の実践例

ア 小学校第5学年の実践例

- 小小連携での合同授業

4校合同で行われた小小連携の機会を活用して、ふるさと学習を行った。この時間は、ふるさと学習の導入を行い、「霧島山」の写真や副教材を使って、個々の山の名前を調べたり、スケッチしたりしながら、これからの学習の計画を立てた。

導入後は、それぞれの学校で児童個々の課題を解決する学習を進めた。下は、児童が調べたテーマの例である。



【小小連携での授業の様子】

総合的な学習の時間 ワークシート

霧島山のよさや恵みについて調べよう。

① 班で調べるテーマ
観光地(温温, 登山) 霧島公園

② 調べる方法
インターネット(パソコン)

③ 調べたことを、どのようにまとめて発表しますか。
方角紙にまとめる。

調べること	分かったこと
① 登山(高千穂山)	源は日本海に接している。

- 「霧島山」周辺の観光地
 - ・温泉
 - ・登山
 - ・ジオパーク国立公園
 - ・天の逆針
- 「霧島山」の風景
- 「霧島山」の形
- 「霧島山」はなぜつながっているのか
- 二子石の特徴や名前の由来
- 新燃岳の形や歴史

イ 中学校第1学年の実践例

○ 生徒の作品・学年発表

小学校で学習してきたふるさと学習の内容を振り返り、自分が伝えたい高原のよさをさらに詳しく調べた。

その後、グループに分かれ、テーマ別に作品にまとめた。

お互いの作品を発表し合い、高原のよさを共有することで、ふるさと高原のよさを見つめ直すことができた。

〈生徒の感想〉

町の畜産や農業・灰の活用を調べて、農家の方の苦勞を知り、自分たちにできることをどんどんしていきたいと思った。もっとこのような学習で高原のことを学び、周りの人にも知ってもらいたい。



【生徒の作った発表資料】



【学級発表の様子】



【学年発表の様子】



【地下式横穴墓の制作】

VII 成果と課題

1 成果

○ 昨年度の研究をもとに、ふるさと学習について、総合的な学習の時間の指導計画・学習指導過程を作成し、年間5時間ではあるが町内全ての小・中学校で実践することができた。

○ 総合的な学習の時間におけるふるさと学習の実践を通して

- ・ 高原町について、もっと調べてみたいという意欲をもった児童生徒が増えた。
- ・ ふるさと学習の重要性や意義を、町内の多くの教師が認識することができた。
- ・ 実践を通しての課題も分かり、次年度へ向けての取組の方向性が見えた。

○ 教科におけるふるさと学習の系統表を作成し、教科の学習においても、ふるさと学習を推進することができた。

2 課題

○ 総合的な学習の時間や教科においてどの学校どの教師でも活用できるように、ふるさと学習を実践していく際の資料をデジタル化し、ネットワーク化しておく必要がある。

○ ふるさと学習の実践を通して、総合的な学習の時間の指導計画・学習指導過程を更に工夫・改善していく必要がある。

【参考文献】

「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間」

文部科学省

「平成22年度 調査研究報告書 教育研究論文集」

高原町教育委員会

平成23年度 高原町教育研究所 研究同人

所属	職名	氏名	所属	職名	氏名
教育委員会	所長	江田 正和	狭野小学校	教諭	森 茂人
教育委員会	研究指導員	濱砂 敬三	後川内小学校	教諭	柿並 祐次
高原小学校	教諭	河野 三加	高原中学校	教諭	川崎 彩
広原小学校	教諭	矢野 学	後川内中学校	教諭	深江 理恵